

ザ・中野MAP

掲載店舗数45軒！
区内6ヶ所のスポットを紹介！

中野「**観光 総合**」

古きも新しきも人の温かさが残る街
きつとハマる場所が見つかります！

一般社団法人 中野区観光協会

中野編

中野MAP

【東中野は桜の名所】

春、桜の季節。区内では中野通りや桜並木が有名ですが、東中野の桜も負けていません。鉄道ファンに知られている、JR中央線沿いの桜並木がその一つ。JR東中野駅西口から山手通りを渡り線路沿いに中野方面に歩けば線路の両側に咲き誇る桜をご覧になれます。新宿区との区界を流れる神田川沿いもおススメスポットです。花見をしながらゆっくりお散歩を楽しんでみてはいかがでしょうか。



【氷川神社】

東中野といえば氷川神社。東中野駅西口を出て山手通りを南に行くくと左側にあります。旧中野村の総鎮守社で、創建は長元3年(1030年)に武蔵一の宮であるさいたま市大宮にある氷川神社から勧請したものと伝えられている由緒ある神社です。祭神は須佐之男命・稲田比売尊・大己貴尊の三柱です。例祭は9月14・15日ですが、元は26・27日の両日でした。2015年の例祭は、9月19日、20日に行われます。20基近くのみこしと山車が街中を練り歩く盛大なお祭りです。なんと青梅街道も、みこしのために片側通行になります。



【梅若能楽学院会館】

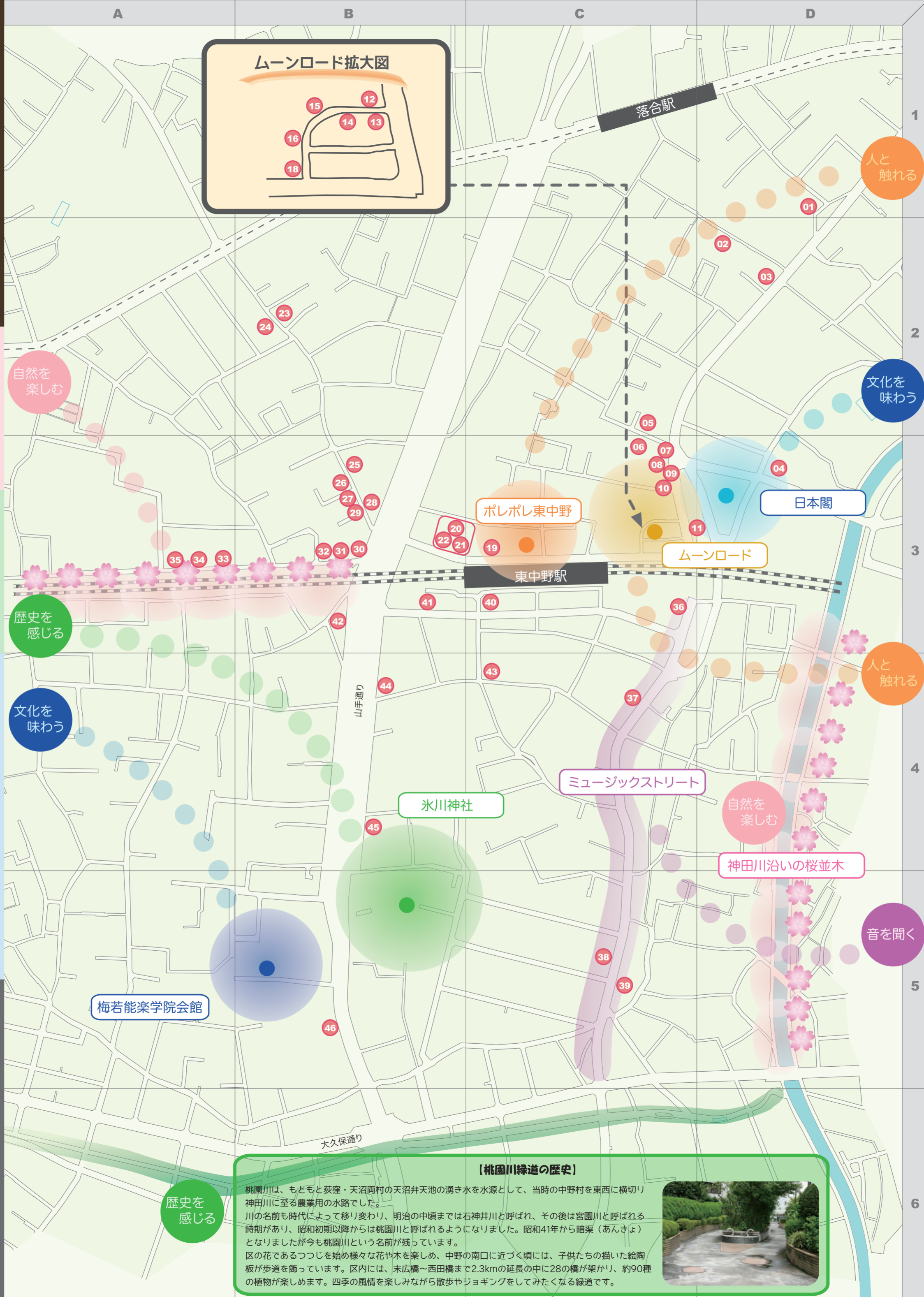
能は鎌倉時代後期から室町時代初期までに完成した日本独自の舞台芸術のひとつです。現在では日本における代表的な伝統芸能として遇され、国際的に高い知名度を誇る世界無形遺産へ登録されています。

観世流梅若家の系譜は奈良朝の橘諸兄に始まり、現宗家、56世・六郎師は橘諸兄から計算して、56世・梅津姓を名乗った友時からは47世となります。その頃は梅津の梅宮に仕えておられ、丹波経部領大志麻では七万余石を領する豪族となり、地方に出たとは言え、系図によれば官位や役職が見えます。丹波へ行った梅津の人々が、いつ頃から猿楽を始めたか定かではありませんが、室町時代には丹波猿楽の梅若の名が文献に登場しています。現在の能楽堂・梅若能楽学院会館は昭和36年に専門学校として開校しました。今では能を中心として様々な形で舞台として使用されています。



東中野ってこんなまち

創建が1030(長元3)年といわれる旧中野村の総鎮守社「中野氷川神社」を有し、淀橋や小滝橋の架かる神田川を挟んで内藤新宿(山手)への西の入り口として栄えた東中野。東中野駅は1906(明治39)年に甲武鉄道柏木駅として開業。この場所から中央線は西に向かってまっすぐ経度で平行に引かれた線路となっていることは有名です。駅周辺には2020年に創業100年を迎える日本橋、人間国宝が舞う梅若能楽堂、昭和風情漂う繁華街ムーンロードなど、歴史や文化に出会えます。そして、ポレポレ東中野を筆頭にエッジの効いた個性の強い店が点在するという2面性を持った街「東中野」。神田川や線路沿いの桜は都内有数のお花見スポットとしても知られています。ぜひ、このマップを手にして、どっぷり東中野に浸かってください。



【桃園川緑道の歴史】

桃園川は、もともと教窪・天沼両村の天沼弁天池の湧き水を水源として、当時の中野村を東西に横切り神田川に至る農業用の水路でした。川の名前も時代によって移り変わり、明治の中頃までは石神井川と呼ばれ、その後は宮園川と呼ばれる時期があり、昭和初期以降からは桃園川と呼ばれるようになりました。昭和41年から陥穽(あんきよ)となりましたが今も桃園川という名前が残っています。区の花であるつつじを始め様々な花や木を楽しみ、中野の南口に近づく頃には、子供たちの描いた絵陶板が歩道を飾っています。区内には、末広橋〜西田橋まで2.3kmの延長の中に28の橋が架かり、約90種の植物が楽しめます。四季の風情を楽しみながら散歩やジョギングをしてみたくなる緑道です。

【ポレポレ東中野】

東中野出身の写真家、本橋成一さんが主宰される今では区内唯一の映画館です。前身は「BOX東中野」という映画館が1994年にオープンし、本橋さんが運営を始めたのは2003年9月からで、ドキュメンタリー映画を多く上映しています。「ポレポレ」とは、東アフリカ辺りのある地域の共通言語であり、のんびり、ゆっくりの意味です。「坐」とはみんなが車座になってわいわい語り合うという意味で、どちらも本橋さんがアフリカを始め世界各地での取材を通して、印象深かった言葉だそうです。2005年5月から1階に喫茶「スペース&カフェ ポレポレ坐」をオープンし、歌・落語・語りなどのさまざまなイベントが開催されるようになりました。特に小室等さんがナビゲートするポレポレ坐コムロ寄席での「永六輔さんが語る芸人とその世界」は好評です。ポレポレ坐スタッフの一人は、「みんなが日常生活から少し立ち止まって考える場、語り合う場としてここが存在している。ある事柄に対して反対を主張するだけでなく、当事者であるそこで働く人々、生活する人々に焦点を当て、本来の有り様について考えることの大切さ、本来の豊かさとは何であろうかを問い続けていける場こそがポレポレ坐であり、この場所を運営することを我々の活動としたい。」とお話されます。東中野から世界の隅々にこのフィロソフィーが、常に斬新かつやさしく届き続けることを願います。

【日本閣】

大正9年に創業以来95年もの間、数えきれないほどのカップルの幸せを見守ってきた結婚式場「West53rd日本閣」。その始まりは、釣堀やさん「鈴木や」。300坪もあった大規模な釣堀には東京の方から(中野はその頃は東京の郊外でした)わざわざ釣りにくるお客さんもいらしたそうです。お茶を出し、お食事を出し、「一杯やりたい」という要望に応じてお酒を出し、次第に大きくなっていきました。田んぼの中の池が釣堀となり、釣堀が食事処となり、食事処が料亭となり、料亭が婚礼の館となり、現在プライダルサロンとして有名になった日本閣にはこんな歴史がありました。東中野で一歩一歩成長を続けてきた日本閣はまさに地域が生んだ、そして地域に根ざした企業です。

【昭和の街“ムーンロード”】

昭和20年代に東中野駅前に飲食店街「住吉小路」が誕生！戦後の荒んだ心を癒してくれた庶民のオアシス！サラリーマン、医者、銀行マン、政治家、作家、画家、映画人、学生等。ここでは職業・年齢は関係なく、みんな同じ飲み仲間。そこには温かい人情があり、気のおけない仲間たちがいました。当時は流しのギター弾きが店を一軒一軒回ってお客様の歌の伴奏をし、一緒に飲み、おしゃべりをし人間的な絡りがありました。

20数年前に「住吉小路」を「ムーンロード」に改名。ちょっと近代的にしようとしたのかも！でも店舗は大衆食堂、寿司屋、ラーメン屋、おでん屋、ものまねの店、カラオケというなんのお店が並び、毎晩活気にあふれていました。3年前には街路灯をLEDに替え、傘も昭和の雰囲気のものに取り替え、訪れるお客様がホッとする空間に作り上げました。たくさんの人々に「ムーンロード」を知って頂きたく、ホームページも立ち上げ(<http://moonroad.jp/>)、秋には昭和の街ムーンロード「秋まつり」を開催。出店もたくさん並び、ジャズやパントマイム、ゴスペルなど盛りだくさんの企画で、お客様も大いに楽しんで下さいます。少しずつ昭和の街も進化しています。いつ迄もこの空間を壊さないで残してほしいものです。(マ・ヤン 東田敬子)

【東中野は音楽の街？】

通称ミュージックストリートって？

東中野の南側、いつからか、そしてどこからが集まってきた「音符」。古くて、新しく、優しくて、激しくて、そして未熟な「音符」はいつの間にか通称ミュージックストリートという五線譜に浮かび上がり、それぞれの「音魂」を奏で始めた…なんてね。。JR東中野駅西口の南側エスカレータ下すぐのビル3Fに初心者でも曲が作れる「作曲塾」、その線路沿いを東に向かって1ブロック先2Fにライブレンタルスペース「YES!」、一本南側の通りに出ると50年代から70年代の洋楽ロックバー「Hello Goodbye」、そこから東に向かって突き当りを右に曲がった三叉路左側にも定期的なライブイベントをおこなうミュージックバー「じみへん」やピアノ教室もやっているレンタルスペース「クープカフェ」、三叉路から南に少し行くと右側には楽器やステージ完備のバー&ミュージックスポット「ALT_SPEAKER」、その地下にはメジャーからインディーズまで様々なアーティストのレコーディングを手掛けてきた音楽レーベルLD&Kのレコーディングスタジオ「LD&K Studio」、その南側30m程のところに初心者専用音楽スクール「ミオンミュージック」、さらに20m先には音楽&ダンススクール「音屋」、その他にも歌声喫茶的なお店や演歌歌手を抱えるバーなどもありますよ。東中野には昭和の街「ムーンロード」内にもシャンソンバーやジャズバーなどありますが、JR東中野駅西口の南側から東に向かって真っ直ぐ、突き当りを右に曲がって大久保通りまでを、中野区観光協会マップ委員会では勝手に「ミュージックストリート」と命名しちゃいました！

